



御園だより

令和8年度 6月号
大田区立御園中学校
校長 中野 敏英

「自分をもっと好きになろう」

校長 中野 敏英

1 ぞうさん

ぞうさん

おはながながいのね

そうよ

かあさんも ながいのよ

2 ぞうさん

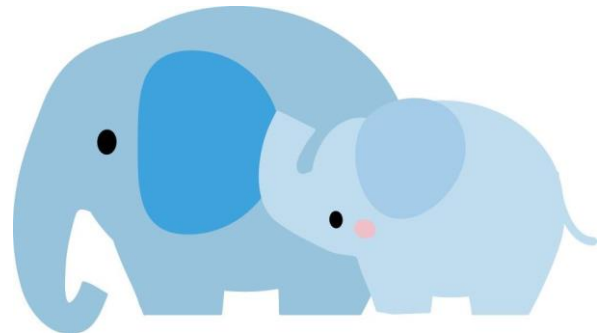
ぞうさん

だあれが すきな

あのね

かあさんが すきなよ

童謡「ぞうさん」の歌詞です。大人も子どもも知らない人はいないと思います。作詞は、まど・みちお（1909年—2014年）さんです。私はぞうの子どもと母親の仲良しこよしの歌とっていました。ある新聞の取材でまどさんはこのように答えています。「仲の良いぞうの親子の歌ではないのです。ぞうの子が鼻が長いとけなされている歌なのです。」この地球上の動物はみんな鼻は長くない。そういう状況の中で「おまえは鼻が長いね」と言われたとしたら、それは「お前は不具だね」と受け取ってもおかしくはないはずです。それでもぞうの子はしょげたりしない。むしろほめられたかのように、一番大好きな母さんも長いと、いばって答えています。「それはぞうが、ぞうに生まれたことは、すばらしいことだと思い、幸せに思い、誇りに思っているからです。」



ぞうに限らず、ウサギもスズメも草も木も、地球上に住む数限りない生き物たちすべてが自分であることを喜んでいる。もちろんその中の一員として、人間が人間として生かされているのは、本当にすばらしいことです。童謡「ぞうさん」は、単なる鼻が長いぞうの紹介ではなく、この世に生きるすべての生物の存在を認め、「そのままの姿が一番すばらしいのだから、自信を持って生きなよ」と告げているというのです。

人間だってお互い違って当たり前。勉強が得意な人もいれば、運動が好きな人もいる。ユーモアのある人、親切な人、絵がうまい人、料理のうまい人、字がきれいな人、掃除好きな人、昆虫に詳しい人、器用な人…。それぞれに違いがあるからこそ意味がある。自分も違って大丈夫、自分にしかない良さがある、だからこそ自分にしかない良さを見つけてほしいと思います。お互いの違いを認め合い、友達の良いところをもっと見つけられるようになるように願っています。それぞれの良さを生かして助け合うことが最善のみち。そして、一人一人がきらっと輝く自分の良さを見つけて、もっと自分のことを好きになってほしいと思います。

学校日記

「修学旅行」5月24日（日）～26日（火） 2泊3日 奈良・京都へ

11時21分に新大阪駅に到着。関西特有の蒸し暑さでした。ここからはクラスごとに貸し切りバスに乗り換えて最初の目的地の法隆寺に向かいました。現地に到着して見学開始。世界最古の木造建築金堂には国宝・釈迦三尊像、千三百年もの長い歳月を経てきた五重塔はただ仰ぎ見るだけで歴史を深く感じさせてくれました。再びバスに乗り、奈良公園に向かいました。鹿と共に学級写真を撮った後、班毎に南大門、東大寺（大仏殿）、春日大社、国立博物館等を見学しました。私は、今までの喧噪が嘘のように静かな二月堂で、奈良の町並みをのんびりと見下ろしました。この日の宿泊先は、奈良よしだや旅館です。猿沢池の畔に建つ風情漂う純和風旅館で落ち着いて過ごせました。2日目は、公共交通機関を利用した班別行動でした。京都へ移動し、伏見稻荷、清水寺、銀閣寺、三十三間堂、南禅寺等、班毎に計画をしていた場所を巡りました。晴天に恵まれ、順調に行動できましたが、暑さのせいでみんなへとへとになって京都の日昇別荘に到着しました。最終日は、タクシー行動5時間でした。昨日行かなかったところを運転手さんのガイドで巡ってきました。お土産もたくさん買ったようです。3日間とも仲間と協力して、事故や病気もなく無事終了しました。旅行中の3年生の態度が素晴らしく、宿の女将さん等からお褒めの言葉をいただきました。良い思い出はできましたか。



みんなで仲良く法隆寺（A組）



こちらも仲良く法隆寺（C組）



暑かった清水寺



快適タクシー行動



鹿といっしょに奈良公園（B組）



名物つくもうどん

5月の輝いた御園中生

【大会結果】（5月29日現在）

・バレーボール部

第79回区民スポーツ大会（春季）バレーボール大会 中学生女子の部

優勝 御園中 A

準優勝 御園 B